

# 令和4年度あまっこ部会活動報告

～令和4年度の取り組み～

障害児通所支援事業所交流会2回実施！

あまっこファイル書き方教室1回実施！

医療的ケア児支援部会1回実施！

報告者：あまっこ部会 小西万弥

1

## 令和4年度活動報告

- あまっこ部会
  - ①7/25 (zoom)
  - ②12/2 (身体障害者福祉会館大ホール)
  - ③R5/2/22 (zoom)
- あまっこ部会事務局会議
  - ①7/1 (身体障害者福祉センター・研修室)
  - ②8/18 (同上)
  - ③10/24 (同上)
  - ④R5/1/16 (同上)
  - ⑤R5/2/22 (同上)
  - ⑥R5/3/20 (同上)
- 医療的ケア児支援部会
  - ①R5/2/1 (北部保健福祉センター)

2

## 障害児通所支援事業所交流会について

### 【実施背景】

発達障害の認知の広がりや利用ニーズの高まり等により、基幹相談支援センターや委託相談支援事業所、子どもの育ち支援センター（いくしあ）での相談件数が増えている。

障害児通所支援（特に児童発達支援と放課後等デイサービス）の利用日数（人数）についても、近年大幅に増加している。また、それに合わせて指定事業所も大幅に増加している。

サービス利用実績・指定事業所が大幅に増加している中、通学先（学校、園）や市の療育機関等との十分な調整・連携が図れていない事例などもある。

あまっこ部会として・・・

（仮称）障害児通所支援ネットワーク（令和5年度設置予定）に先んじて、まずは、障害児通所支援事業所が抱える課題や取り組みの共有、顔の見える関係を築いてもらうことなどを目的に、交流会を企画・開催した。

3

## 第1回 障害児通所支援事業所交流会

開催日：令和4年9月27日（火）10：30～12：00

場 所：尼崎市立中央北生涯学習プラザ 大ホール

参加者：障害児通所支援事業所（27名）

障害児相談支援事業所（2名）自立支援協議会（委員）（12名）

自立支援協議会（関係機関）（3名）委託相談支援事業所（7名）

合計51名

開催内容：

（1）尼崎市の障害児通所支援事業の現状について  
→ 障害福祉政策担当課長から説明

（2）あまっこ部会の取組内容等について  
→ あまっこ部会 部会長から説明

（3）グループワーク  
（事業所紹介・発達支援・保護者支援・地域、他機関連携等話し合い）

4

## 第1回 障害児通所支援事業所交流会 ～グループワークでの主な意見①～

### 【支援の内容について】

個別的な関わり 作業療法などの支援 作業所で就労をイメージした取り組み 運動や音楽療法 SSTや英語教育 集団レク 遠足 発表会など。

### 【保護者支援について】

- ・父親の関り
- ・保護者の交流会を企画
- ・「様子をみましょう」といわれる保護者への不安感への寄り添い
- ・保護者の思いと事業所の思いの温度差 伝え方の難しさ

### 【連携先について】

・学校 病院 相談支援専門員 いくしあ 行政 きょうだいの通所先 保育所等訪問支援 など。

5

## 第1回 障害児通所支援事業所交流会 ～グループワークでの主な意見②～

### 【連携について】

- ・支援者が集まって**情報共有**をする機会があると見通しが持てる。
- ・**要対協ケースも多い**。どこまで対応すればいいのか、どう対応したらいいのか迷うことや難しさも感じる。
- ・学校と事業所で支援内容や方向性を**統一**できれば成長につながると思う。
- ・所属先の様子を知ることによって普段見ることができない様子や支援内容、環境を知ることにも有効だと感じる。

### 【その他】

- ・発達課題等により保育所や幼稚園を途中退園してしまうとなかなか受け入れ先が見つからない。児童発達支援も**定員があり**受け入れが難しいこともある。
- ・最近では1歳半ころからのサービス申請が多い。
- ・**送迎にまつわる悩み**（駐車スペースがなく近隣から苦情につながることも。利用児を学校が把握しきれていないことも。）
- ・**報酬改定や利用基準**について。
- ・療育をうけてご本人の変化をどう理解してもらうか、どう伝えるか。

6

## 第2回 障害児通所支援事業所交流会

開催日：令和5年3月6日（月）14：00～16：00

場 所：尼崎市立中央北生涯学習プラザ 大ホール、1階学習室

参加者：障害児通所支援事業所（27名）障害児相談支援事業所（3名）

自立支援協議会（委員）（7名）自立支援協議会（関係機関）（1名）

委託相談支援事業所（6名）

合計44名

開催内容：

（1）子どもの育ち支援センター（いくしあ）の取り組み

- ① 児童虐待とこども相談支援課について
- ② 発達相談支援担当について

（2）グループワーク

→ 不適切な養育と思われるご家庭への対応等

7

## 第2回 障害児通所支援事業所交流会 ～グループワークでの主な意見①～

【不適切な養育環境と思われるご家庭にはどんな課題があるか】

### ●保護者の障害受容や教育方針等考え方の問題

- ・ 複数の事業所利用、複数の習い事
- ・ 本人の思いと支援者家族の思いに齟齬が生じる場合がある

### ●保護者の疾患など

- ・ 保護者に精神的疾患がある
- ・ 保護者自身も複雑な生き立ちである

### ●虐待やヤングケアラー

- ・ 食事を摂っていない
- ・ きょうだいの面倒をみている
- ・ 不適切と気づいてないケースも…

### ●不登校

- ・ 保護者も昼夜逆転している

8

## 第2回 障害児通所支援事業所交流会 ～グループワークでの主な意見②～

### 【対応内容や困りごとなど】

- 保護者からよく怒られているケースでは**ご本人の良いところ**を伝えているが保護者の褒めポイントと子ども自身が褒めてほしいポイントにずれが生じることもある。
- 日々の**保護者の感情をフォロー**することや**子どもへのフォロー**の方法を伝えている。注意するだけではうまくいかないで「なぜそうなったのか」などコミュニケーションを図りながら対応している。
- **キーパーソン**の姑と何度も話しながら対応し丁寧な引継ぎを行ったが入学後に引継ぎ内容が伝わっていないことがあった。
- 教育、子育て方針にはなかなか介入がしづらい。**しつけの範疇**なのか…。
- 療育内容について**求めるものが高く**子どもにとっては**負荷が大きい**と感じることも。本当に利用したいのかどうか、子どもの負担感も伝えたいが…。
- **経験の大切さ**や子ども自身に「〇〇がしたい」と**発信できる力**をつけることも意識している。

9

## 第2回 障害児通所支援事業所交流会 ～グループワークでの主な意見③～

### 【対応内容や困りごとなど（続き…）】

- 家事援助などの**サービス利用**を整えた。
- 原因がわからず突然**不登校**になった場合、どう対応していいか悩む。
- 進路先の**懇談会**や**ペアレントトレーニング**を実施している。
- **学校との連携**については個人情報の問題もあり、直接的な回答はできないと断られるケースもある。保護者をうまく介して解決を図ることもある。
- 事業所の専門的な関りだけでは改善が難しいケースもある。地域での居場所の確保（ボランティア）など**インフォーマルな支援**につなげることができれば。
- 医療職としては関係機関につなぐことを意識している。AGMCには虐待対応に力をいれている部署もあり医療職間で**情報共有できるスキーム**がある。
- **連絡手段**として電話だけでなく、LINEでの対応もし、愚痴だけでもきけるようにしている。

10

## あまっこファイル書き方教室

開催日：令和5年2月13日（月）10：00～12：00

場所：尼崎市立身体障害者福祉センター2階研修室

参加者：2名

- ・ 年中児 4月より幼稚園へ
- ・ 年長児 4月より小学校へ

アンケートより

- ・ 改めて書き出すのはとても難しかった。当たり前になりすぎてわざわざ書くことじゃないという認識になっていたことも多かったので、誰かに話すことで気づくことができた。
- ・ 一人で書くと「〇〇できません」という記載ばかりになってしまいやすいので、具体的な支援の方法を考える機会になった。
- ・ 受け入れる側も不安なこともあると思うので、あまっこファイルを渡すことでよい支援に繋が리そうだと思う。

11

## 第1回医療的ケア児支援部会

令和5年2月1日（水）18：00～20：00

●尼崎市における医療的ケア児支援のための取り組みと現状について共有

- ・ **平成29年からの振り返り**
- ・ **医療的ケア児の退院連携スキームについて**
  - AGMCと連携し退院時のフローを作成し、その流れの中で調整等行っている。
- ・ **尼崎市の医療的ケア児等コーディネーターの取り組みについて**
  - 北部基幹相談支援センターに2名、南部基幹相談支援センターに1名配置。
  - 関係機関との連携、相談支援専門員や地区担当の後方支援。
  - 医療的ケア児のリスト管理。
- ・ **教育・保育分野における医療的ケア実施体制について**
  - 【教育】令和4年3月に「市立学校園における医療的ケア実施体制ガイドライン」を策定し、令和4年4月から運用開始
  - 【保育】令和4年10月に「尼崎市保育所における医療的ケア実施ガイドライン」を策定し、令和5年度からの受入開始

12

## 第1回医療的ケア児支援部会

### 【委員意見や課題など】

- 家族の負担を軽減できる仕組みが整っていない。
- 医療的ケア児のケースに対応できる相談支援専門員が少ない。
- まだまだ社会資源が少ない。
- 通院への負担。小児専門の往診医の不足。
- 進路先が限られる。保護者の就労が保障しにくい。などなど…
- リスト管理については、支援機関間で継続的に共有することが重要。
- 医療的ケア児のイメージの共有をするため、データ（リスト）の利活用が重要であり、そこから支援先のマッチング・ペアリングができるようにする。
- 退院連携スキームについては、AGMC以外との共有をしていくべきではないか。

➡ 人・資源、環境など…まだまだ少ない、足りていない現状がある…

13

## 今年度のあまっこ部会での取り組み

- 障害児通所事業所交流会について
  - 令和5年度から障害児等療育支援事業の一環として、「（仮称）障害児通所支援ネットワーク会議」が設置されるため、あまっこ部会との連携（関わり方）や課題の共有について、協議していく。
  - （例）○様々な機関（保健・子ども・教育）との連携
    - 利用児童・保護者支援の視点も踏まえたサービスの質の向上（研修や交流）
    - 事業所情報の把握やサービス利用のしやすさの仕組みづくり など
- あまっこファイルについて
  - 書き方教室、相談会の対象者の検討。
  - 本市におけるあまっこファイル活用方法についての方向性の検討。
- 医療的ケア児支援部会について
  - 部会で出された課題や意見をもとに、医療機関（病院、訪問看護など）との連携や医療的ケア児のリスト管理の精度向上、医療的ケア児へのアウトリーチの手法などについて引き続き協議していく。

14